

事業計画書

平成 30 年度
(2018 年度)

公益財団法人JAL財団

目 次

I. 【公益目的事業1】

航空文明社会において地球的規模で考え行動できる
人材を育成する事業

- | | |
|---------------------------|---|
| 1. JALスカラシッププログラム | 2 |
| 2. 世界こどもハイクコンテスト等俳句普及事業 | 4 |
| 3. 「空の日」中学生主要空港派遣事業 | 5 |
| 4. 地球人講座/インターンシップ等研修プログラム | 5 |

II. 【公益目的事業2】

航空文明社会の発展を推進するための調査・研究事業

- | | |
|-----------|---|
| 1. 大気観測事業 | 6 |
|-----------|---|

III. 広報活動	7
-----------	---

I.【公益目的事業1】

航空文明社会において地球的規模で考え行動できる 人材を育成する事業

1. JALスカラシッププログラム

アジア・オセアニア地域の大学生・大学院生を日本へ招待し、日本人大学生とともに研修や文化交流を体験してもらい、日本への理解や国境を越えた相互理解を促し、将来を担う人材へと育成することを目的として、昭和50年（1975年）に日本航空が始めたこのプログラムについては、平成2年（1990年）より当財団が引き継いで運営を継続している。これまでに海外から参加した学生は1,590名を数えるに到り、その多くが様々な分野で活躍していることに鑑み、今年度も49回目となる「2018 JALスカラシッププログラム（大学生・大学院生対象）」を開催する。

また、日韓両国間の現状を踏まえ、両国の若い世代の相互理解を促すために、日韓国交正常化50周年を迎えた平成27年（2015年）より開始した当プログラムの一環の事業である日韓中学生相互訪問プログラムについては、平成28年（2016年）9月に実施した韓国側中学生の来日によって相互訪問を完結した。

今年度は、日中平和友好条約締結40周年という節目の年にあたり、相互の一層の進歩・発展のために、若い世代の交流によりさらに強い信頼関係を将来に向けて築いて行くことが有益と考えられる中国との間において「日中中学生相互訪問プログラム」を新たに開始すべく、検討、準備を進めることとする。

（1）2018JALスカラシッププログラム（大学生・大学院生対象）

（ア）実施期間：平成30年6月下旬～7月下旬（約三週間）

（イ）実施形態：

- A. 主催 公益財団法人JAL財団
- B. 協賛 日本航空株式会社
- C. 協力 アジアフォーラムin石川実行委員会、白山市国際交流協会、公益財団法人東日本鉄道文化財団、
- D. 後援 外務省、国土交通省、文部科学省、石川県、金沢市、白山市、独立行政法人国際交流基金

（ウ）学生募集要領：

- A. 募集対象国・地域と人数 以下のアジア・オセアニア国・地域より26名を募集予定（別途、日本人学生を約30名募集）
韓国（ソウル、釜山）、中国（北京、上海、広州、大連、天津、香港）、

台湾（台北、高雄）、フィリピン、ベトナム（ハノイ、ホーチミン）、
タイ、ラオス、カンボジア、マレーシア、シンガポール、インドネ
シア、ミャンマー、インド、グアム、オーストラリア

- B. 募集・選考方法： 海外学生 各国・地域の日本航空支店を通じて募集
日本人学生 財団ホームページ等により募集
- C. 選考方法：一次審査（テーマに関する日本語の小論文）、二次審査（面接）
- D. 参加費用：財団負担（各国・地域と日本間の往復航空券は日本航空提供）

(エ)今年度プログラム内容：

- A. テーマ SDGsー持続可能な社会へー 考えよう、いまの社会のために、そして
将来世代のために私たちができること
- B. 使用言語：日本語
- C. 構成
- 基調講演
 - ・第一線で活躍されている講師による講演により、参加者にテーマに関する概括的な理解を促し、また、考えを深めるためのヒントを提示する。
 - ・講演後、学生間の意見交換、討論の機会を設け、テーマに関する認識・考えの差異や共通点を明らかにする等により、今後のプログラムにおいて確認すべきこと、考えるべきこと等を各々が認識することを促す。
 - フィールドワーク／フィールドトリップ
 - ・テーマに関連した施設や場所を訪れて、見学、体験学習等を行う。
 - ・日本特有の文化・芸能等の体験や、地域の方々との交流活動を行う。
 - 学生セッション
 - ・基調講演、フィールドワーク／フィールドトリップ、意見交換や交流等を通じて認識し、考えたことをベースにして、参加海外学生と日本人学生でテーマについて討論を行い、それぞれの視点でテーマに関する考えや意見・提言をとりまとめ、公開の場で発表を行う。
 - 福岡プログラム
 - ・福岡県宗像市を舞台に今年度テーマに則した講義の受講、福岡県の学生とのフィールドワーク等を通じた研究・発表を行う。
 - アジアフォーラム in 石川
 - ・アジアフォーラム in 石川実行委員会との共催プログラム。今年度テーマに関連した地域テーマについて石川県の大学生との意見交換・討論等を行い、公開シンポジウムでその成果を披露する。
 - ホームステイ
 - ・ボランティア家庭にホームステイの機会を提供して頂き、日本の家庭生活を体験することを通じて、日本の生活習慣や文化に対する理解を促す。

(2) 2018JAL スカラシッププログラム（日中中学生対象）

(ア) 実施予定時期・期間：平成30年10月～11月（予定）に一週間程度

(イ) 実施形態：

A. 主催 公益財団法人JAL財団

B. 協賛 日本航空株式会社

C. 後援 関係機関に申請予定

(ウ) 参加者： 日本側 中学校生徒8名

中国側 中学校生徒8名

(エ) 今年度プログラム内容：

今年度は日本人中学生を訪中させ、中国側中学生との交流、様々な体験（学校授業への参加、中国文化体験等）をさせることにより相互理解のさらなる深化を促す。

(オ) 実施費用：財団負担（日中間の往復航空券は協賛先の日本航空提供）

尚、「JAL スカラシッププログラム(日韓中学生対象)」については、2018 年度は実施しない。

2. 世界こどもハイクコンテスト等俳句普及事業

世界の青少年へ俳句創作の楽しさを広め、豊かな感性を育み、また、世界でもっとも短い「詩」である俳句を生み出した日本文化や日本への理解の深化を図るために、「世界こどもハイクコンテスト」をはじめとする俳句普及事業を引き続き実施する。

(1) 「第15回世界こどもハイクコンテスト」の継続

平成29年春から平成30年春にかけて、「いきもの」をテーマに日本と世界各地において開催している「第15回世界こどもハイクコンテスト」（隔年開催で前回は平成27年春から平成28年春に開催）については、平成30年度初めにかけて各国・地域での応募作品審査を行い、大賞、優秀賞の表彰等を行う。また、大賞、優秀賞の作品を集めて、平成30年末までに絵本「地球歳時記 いきもののうた（仮称）」として編集し、出版社へ発行を依頼する。発行後、一定部数を買取り、国内外の図書館や教育機関へ寄贈する。

参考. 当ハイクコンテストについては、日本航空(株)が昭和39年から不定期に実施していた海外での俳句普及事業を、平成元年（財団設立時）より財団が引き継ぎ、子供を対象とした定期開催コンテストに改めて継続実施している。なお、日本では五七五音の俳句に、海外では現地語による三行詩（ショートポエム）に、各々俳句にちなんだ情景を自らの手で描いた絵（俳画）を添えた作品を募っている。

(2) 俳句関係行事への協賛

国内で開催される青少年を対象とした俳句関係行事（「松山 俳句甲子園」、
「熊本『草枕』国際俳句大会」、「秋田日露俳句コンテスト」への協賛を引き
続き実施する。なお、これらの大会の会場等において「地球歳時記」やハ
イクパネル等の展示を行い、「世界こどもハイクコンテスト」を中心とした
当財団の取り組みの紹介に努める。

3. 「空の日」中学生主要空港派遣事業

「空の日」（9月20日）記念事業の一環である「空の日」中学生主要空港派遣事業は、
次代を担う中学生に、航空や空港に対する理解と関心を深めてもらうことを目的と
して、平成4年度から実施されており、平成29年度までに420名の中学生の参
加を得ている。

平成30年度も「『空の日』・『空の旬間』実行委員会」(*)の一員として、この「空
の日」中学生主要空港派遣事業の企画・運営を担うこととする。

(*)「空の日」・「空の旬間」、「空の日」・「空の旬間」実行委員会

我が国の航空は、昭和27年の民間航空再開から目覚ましい発展を遂げ、今や国民生
活に不可欠な交通機関となるとともに、空港は地域発展の核のひとつとなっている。
民間航空再開40周年にあたる平成4年、より多くの国民に航空に対する理解と関
心を高めていただくとの趣旨により、9月20日に「空の日」、9月20日～30日に
「空の旬間」が設けられた。また、その趣旨を踏まえて、「空の日」・「空の旬間」事業
を実施するために、国土交通省航空局、航空会社、空港関連企業、航空・空港関連
公益法人等で構成される『「空の日」・「空の旬間」実行委員会』が設立された。事務局
は「一般財団法人日本航空協会」。

4. 地球人講座/インターンシップ等研修プログラム

地球規模で考え行動できる青少年の育成を目的として、次のプログラムを実施する。

(1) 地球人講座

第一線で活躍する講師による青少年向けの講演会である「地球人講座」を開催す
る。平成30年度は国内、海外各一回の計二回の開催を予定する。

(2) インターンシップ

国際交流事業の一環として、海外の大学で日本語や日本文化を学んでいる大学生を当財団に受け入れ、就業機会を提供することにより、日本語能力の向上を促し、日本社会・文化への理解を深めてもらうためのインターンシップ事業を継続して実施する(今回は中国の大学生を招聘)。また、受け入れ期間中に実施する 2018JAL スカラシッププログラム(大学生・大学院生対象)にも参画させ、アジア・オセアニアの国・地域の学生、日本人学生との交流により相互理解を深める機会を提供する。なお、研修終了時までに独自のテーマについて日本語でまとめた研修レポートを提出させ、ホームページ上で公開することにより、広く一般に国際交流について考えて頂くための材料を提供する。

(3) その他研修プログラム

JAL スカラシッププログラム(大学生・大学院生対象)の実施に協力を頂いている公益財団法人東日本鉄道文化財団が取り組まれているアジア諸国鉄道会社の若手社員を対象とした研修の一環として、平成30年度も航空事業における安全確保への取り組みを中心に紹介する日本航空(株)整備工場等の視察プログラムを提供する。

II.【公益目的事業2】

航空文明社会の発展を推進するための調査・研究事業

1. 大気観測事業

民間航空機に大気中の温室効果ガス濃度等を測定する装置を搭載して、その空間分布の観測を行い、その観測データを国内外の研究者に提供して地球温暖化をもたらす大気変動のメカニズムの解明に資すること、また、それにより地球環境に対する関心を高めることを目的とする当事業に、平成30年度も継続して取り組む。

参考 . この事業では、観測装置の開発、温室効果ガスの測定・研究を国立環境研究所と気象庁気象研究所、観測装置を航空機へ搭載するための当局承認の取得・機体改修等を日本航空(株)、観測装置の運用管理等を(株)ジャムコ、観測体制の充実やデータの公開方法等について意見交換、検討を行う「航空機による地球環境観測推進委員会(前記四者と国土交通省、環境省、地球環境に関する大学研究者等で構成)」の事務局を当財団が努め、共同で推進している。

Ⅲ. 広報活動

当財団の事業・活動内容を広く紹介して、さらなる理解、協力、支援を得て行くために、以下の取り組みを推進する。

- (1) 財団ホームページの充実（更新促進による活動状況のタイムリーな紹介等）
- (2) 「プロジェクトレポート」（年度活動報告書）の内容充実と配布先拡大
- (3) 「世界こどもハイクコンテスト」の紹介拡大
 - ① 「地球歳時記」、「ハイク作品絵葉書」の展示・配布・販売場所の開拓
 - ② 「ハイク作品」（バナー等）、「ハイクの作り方（How to make HAIKU）」（冊子）の展示・配布場所の拡大、JAL 機内エンターテインメントへの搭載拡大等
 - ③ コンテスト開催にご協力、ご支援を頂く企業・団体等の開拓

以 上